

（第 1 面）

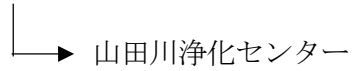
産業廃棄物処理計画書 令和 7 年 1 0 月 1 6 日 奈良県知事 殿 提出者 住所 奈良県生駒市東新町 8 番 3 8 号 氏名 生駒市長 小紫 雅史 電話番号 0743-76-7701 廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 12 条 9 項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	山田川浄化センター
事業場の所在地	奈良県生駒市鹿ノ台東一丁目 1 1 番地 1 3
計画期間	令和 7 年 4 月 1 日 ～ 令和 8 年 3 月 3 1 日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	3 6 3 下水道業
② 事業の規模	
③ 従業員数	正職員 1 名 委託職員 1 0 名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	○汚泥 → 脱水ケーキ → 委託（陸上埋立） 脱水（自己中間処理） ○汚泥 → 脱水ケーキ → 委託（焼却） 脱水（自己中間処理） ○汚泥 → 委託（陸上埋立） （ろ過施設から排出される汚泥） ○汚泥 → 委託（再生：炭化） （貯留槽清掃による各槽から排出される汚泥）

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

生駒市建設部－下水道課－竜田川浄化センター



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状

【前年度（令和6年度）実績】

産業廃棄物の種類

汚泥

排出量

5,278 t

t

(これまでに実施した取組)

②計画

【目標】

産業廃棄物の種類

汚泥

排出量

6,015 t

t

(今後実施する予定の取組)

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状

(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

汚泥：一般廃棄物との区別

② 計画

(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

汚泥：現状維持

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	174 t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	4,857 t	t
	(これまでに実施した取組) 脱水施設により減量化を図っている。これにより脱水効率を上げるよう運転管理を実施し、減量化に努めている。 また、脱水汚泥は本市清掃センターにて助燃材として焼却し、その際生じる熱を近隣施設に利用し、有効活用している。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	300 t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	5,525 t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	全 処 理 委 託 量	247 t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	204 t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	43 t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	全 処 理 委 託 量	190 t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	130 t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	60 t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			